



発行 日本共産党  
春日部市委員会  
春日部市中央  
7-10-9  
電話 736-9933  
FAX 736-9991

# 新型コロナワクチン

## 11月23日で集団接種は終了

新型コロナウイルスの新規陽性者が春日部市においても大幅に減少しています。

理由は解明されていませんが、要因の一つとしてワクチンの普及が考えられています。

### コロナワクチン

#### 85%以上が接種

春日部市では、11月4日現在12歳以上の市民(21万4228人)の85.5%が1回目の接種を終え、2回接種済みが81.2%になりました。埼玉県平均が1回目76.2%、2回目70.8%ですから、県

内でも接種が進んでいる自治体と言えます。

ピーク時は60を超える医療機関での個別接種とイオンモールや市民体育館、谷中小記念館などでの集団接種が並行しておこなわれましたが、現在は、一部医療機関が独自に行っている以外はイオンモールと市民体育館の2カ所のみで集団接種がおこなわれています。市では、85%を超える市民が2回の接種を終える見通しとなったことから、11月23日(火・祝)で集団接種会場のワクチン接種は終了することを決めました。

これまで機会を逃してしまっただ方や、12歳になって新たにワクチン接種の対象になった方については、11月24日(水)以降は市立医療センターで11月24日、12月1日、12月8日、以降隔週水曜日に接種できます。

### 12月以降は 3回目の接種開始

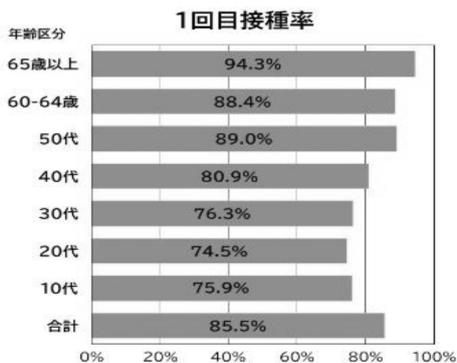
3回目の接種については、国から「準備を進めてほしい」と要請があり、検討をおこなっているということです。

3回目の接種は、2回目終了からおおむね8カ月以上経過した方から開始するとされています。春日部市では、優先順位1位の医療従事者は4月に2回目を終えた方がいますので、12月以降は3回目の接種が始まることになりそうです。

日本共産党は安全で迅速な

### 春日部市ワクチンメーター 年齢区分別

令和3年11月4日時点



ワクチン接種とともに、いつでもどこでも何度でも無料で受けられるPCR検査を実施し、早期に感染者を把握して速やかに保護、治療できる体制を確立することを求めています。

<生活相談は日本共産党へ> 秋山文和 Tel 761-8670 うづき武彦 Tel 761-6185 松本ひろかず Tel 752-3947  
大野とし子 Tel 746-6136 今尾やすのり Tel 761-3676 並木としえ Tel 737-4576 坂巻かつのり Tel 752-6025

日本共産党市議団ホームページ <https://www.jcp-kasukabe.jp/>

※前号訂正します。自民党は261議席で15議席減、日本維新の会は11議席から41議席、国民民主党は8議席から11議席。表中の庄和での得票率、立憲民主党20.27%、公明党18.67%。

# 米価の暴落

## 「米作って飯食えねえ」農家悲鳴

各地で稲刈りが終わり、新米が食卓を賑わせています。しかし、農家ではいま「このままでは米作りは続けられなくなる」と強い危機感が広がっています。

農協から農家に支払われる仮払金が4割以上も下落しているからです。

かつては1俵(60kg)2万2千円台が今や半値以下の水準です。生産費が1万5千円を超えるのに、これではまさに「米作って飯食えねえ」事態です。

### コロナ禍が原因 農民に責任はない

暴落の原因は、コロナ禍で飲食業の休業・営業自粛による大幅な米需要の減少

で、在庫が過剰となったためです。7月末の民間在庫は138万トンで前年比19万トンも増えています。過剰在庫はコロナが原因で、生産者には何の責任もありません。

ところが自公政権がやってきたことは、農家の「自己責任」による過去最大規模となる36万トン(生産量の5%)の転作・減反の押し付けでした。

長期にわたる米の生産調整で農村では「限界だ」の声が渦巻いています。主食米から他作物への転換には、機械の導入や農地整備、販路や技術の習得など課題が多く、政府の方針は生産現場に多大な負担と苦痛を与えています。

大多数の農家が減反と赤字生産を強いられ、中小農家の多くが離農に追い込まれてきま

した。事態を放置すれば、大規模稲作経営も立ち行かなくなり、米作りが総崩れになりかねません。

一方で政府は、国産米には過去最大の減産を強いながら、需要の1割に及ぶ77万トンもの米輸入を継続しています。これほど露骨な米作つぶしがあるでしょうか。おいしい国産米を食べ続けたいという消費者の願いも危うくするミニマムアクセス(最低輸入機会)米は直ちに中止すべきです。

### 過剰米を買い入れ 市場から分離を

いま求められているのは、コロナ禍で生じた「過剰在庫」を国の責任で買い入れ、市場から切り離すことです。その米を生活困窮者や学生への支援、子ども食堂などで活用す

ることを進めるべきです。農家にとつても、販売不振に見舞われている米卸業者や小売業者にも、コロナで苦しむ困窮者にも救いとなる対策です。

併せて、米の需給と価格の安定に国が責任を持ち、生産費に見合う米価の実現など米政策の抜本的転換が必要です。

### 米価対策の意見書 他会派反対で否決

日本共産党市議団は、9月議会で、国に対し、過剰在庫を政府が買い取り市場から隔離する事や、ミニマムアクセス米の輸入を中止する事など、5項目の米価暴落に対する緊急対策を求める「意見書」を提出しましたが、共産党以外の会派の反対で否決されてしまいました。米価暴落に苦しむ農家に冷たい市議会と言わざるを得ません。

休日の当番医

市立医療センター Tel735-1261(夜間毎日、土・日・祝日の昼間)内・外 救急電話相談#7119(毎日24時間)

11/14(日) 春日部さくら病院(内科系)金崎 702-1 Tel731-1103

安達医院(小児科系)栄町 3-287 Tel761-6398 ようこ皮膚科(外科系)大沼 2-62-24 Tel612-3555

11/21(日) 豊春内科小児科クリニック(小児科系)上蛭田 681 Tel760-2300

三須医院(内科系)粕壁東 1-11-12 Tel752-2200 かすかべ整形(外科系)粕壁東 2-1-35 Tel760-2551